

## フィットテストを体験してみましょう

相澤 和幸<sup>1</sup>、畑 豊和<sup>2</sup>公益財団法人 北海道労働保健管理協会<sup>1)</sup>、興研株式会社 北海道営業所<sup>2)</sup>

溶接作業者は、呼吸域付近で溶接ヒュームが発生することから、非常に高濃度の溶接ヒュームにばく露されることがあります。溶接ヒューム濃度の測定は、マンガンを対象としていますが、マンガンの管理濃度の10倍を超える高濃度となることもあるほどです。このような場合、換気風量増等の溶接ヒューム濃度低減対策を実施しますが、それだけでは困難な場合が多く、ばく露防止の最後の砦として呼吸用保護具を使用することが現実的な対策として用いられています。ただし、この呼吸用保護も適切に使用しないと、その効果は発揮できません。

そこで、特化則の改正により、屋内作業場において金属アーク等溶接作業を継続して行う労働者に対して、呼吸用保護具が適切に装着できていることを確認するため、フィットテストを1年以内ごとに1回定期的に実施することが令和5年度から義務付けられることとなりました。

このフィットテストの方法は2種類あり、計測装置を用いて面体内外の粒子の個数を同時に計測しその比から密着性を確認する方法と、被験者がフードを被りそのフード内に甘味料等のミストを噴霧して味覚の有無により密着性を確認する方法です。

本実地研修会は、これらのフィットテストを体験していただく企画ですが、マスクの密着性の重要性は医療現場でも同様ですので、この体験は、N95マスクを使用している医療従事者にも活かせると考えます。

## 【略歴】 相澤 和幸

1979年 苫小牧工業高等専門学校 工業化学科卒  
 1981年 北海道労働保健管理協会 環境測定部  
 1984年 作業環境測定士登録  
 1997年 労働衛生コンサルタント（労働衛生工学）登録  
 2011年 日測協認定オキュペイショナルハイジニスト（IOHA 認証）  
 2019年 北海道労働保健管理協会 産業保健部環境管理課 技術フェロー（現職）

## 【略歴】 畑 豊和

2005年 興研株式会社 入社  
 九州営業所  
 2011年 大阪営業所  
 2017年 横浜営業所  
 2021年 北海道営業所